



日本特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

CF0 15456 US/fm

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2000年 6月20日

出願番号

Application Number:

特願2000-185183

出願人

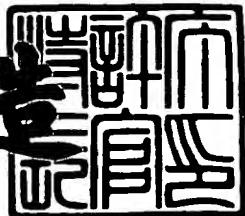
Applicant(s):

キヤノン株式会社

2001年 7月 3日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3062252

【書類名】 特許願

【整理番号】 4032040

【提出日】 平成12年 6月20日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G03G 15/22

【発明の名称】 課金装置、課金処理方法および記録媒体

【請求項の数】 12

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

【氏名】 名古屋 健二

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

【識別番号】 100087446

【弁理士】

【氏名又は名称】 川久保 新一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009634

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704186

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 課金装置、課金処理方法および記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 単一または複数の出力装置と、上記出力装置と直接またはネットワークによって接続されている情報処理装置とを有する課金処理装置において、

上記情報処理装置から上記出力装置に出力する際に課金する課金手段と；

上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出する課金料金算出手段と；

を有することを特徴とする課金処理装置。

【請求項2】 請求項1において、

アプリケーションから、オペレーティングシステム、またはそれに類する環境で決められたA.P.Iを通じて、ドライバを呼び出すことによって、上記情報処理装置が出力することを特徴とする課金処理装置。

【請求項3】 請求項2において、

上記アプリケーションと上記ドライバとは、拡張可能なインターフェースまたは独自のインターフェースを利用し、課金料金の算出の基となる情報の提供と、算出された課金料金の取得とを実行することを特徴とする課金処理装置。

【請求項4】 請求項3において、

上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出し、この算出された課金料金をユーザに通知することを特徴とする課金処理装置。

【請求項5】 請求項3において、

上記課金料金をユーザが確認した後の出力と、課金料金をユーザが確認した後における上記出力のキャンセルと、設定された料金の上限を超えた際に上記出力のキャンセルとを含む課金料金に応じた処理を実行することを特徴とする課金処理装置。

【請求項6】 請求項3～請求項5のいずれか1項において、

上記提供、上記取得、上記通知、上記処理のうちの少なくとも1つを、プリン

タドライバが実行すること特徴とする課金処理装置。

【請求項7】 単一または複数の出力装置と、上記出力装置と直接またはネットワークによって接続されている情報処理装置とを有する課金処理装置の制御方法において、

上記情報処理装置から上記出力装置に出力する際に課金する課金段階と；

上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出する課金料金算出段階と；

を有することを特徴とする課金処理方法。

【請求項8】 請求項7において、

アプリケーションから、オペレーティングシステム、またはそれに類する環境で決められたAPIを通じて、ドライバを呼び出すことによって、上記情報処理装置が出力することを特徴とする課金処理方法。

【請求項9】 請求項8において、

上記アプリケーションと上記ドライバとは、拡張可能なインターフェースまたは独自のインターフェースを利用し、課金料金の算出の基となる情報の提供と、算出された課金料金の取得とを実行するものであることを特徴とする課金処理方法。

【請求項10】 請求項9において、

上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出し、この算出された課金料金をユーザに通知することを特徴とする課金処理方法。

【請求項11】 請求項9において、

上記課金料金をユーザが確認した後の出力と、課金料金をユーザが確認した後における上記出力のキャンセルと、設定された料金の上限を超えた際ににおける上記出力のキャンセルとを含む課金料金に応じた処理を実行することを特徴とする課金処理方法。

【請求項12】 単一または複数の出力装置と、上記出力装置と直接またはネットワークによって接続されている情報処理装置とを有する課金処理装置の制御方法において、

上記情報処理装置から上記出力装置に出力する際に課金する課金手順と；

上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出する課金料金算出手順と；

をコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能

な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報処理装置と、複数の出力装置と、上記出力装置と直接またはネットワークによって接続されている情報処理システムにおける情報処理装置と、周辺装置とに係り、特に、情報処理装置が出力装置に出力する際に課金される場合に関し、課金料金の算出や出力を行なう課金処理方法および課金処理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

近年、出力に対して課金を行うプリントサービスや、出力に対する課金を部門ごとに行うこと等が考えられている。

【0003】

このような場合、課金が実際に行われる出力の前に、課金料金をユーザに知らせることが重要になる。現在、一般的に使用されているWindows等のグラフィックユーザインターフェースを備えている環境では、出力を行うアプリケーションは、決められたAPI(Application Programming Interface)を使用することによって、ドライバを呼び出し、出力コマンドを生成している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、上記APIでは、たとえば用紙の向きやサイズといった一般的な項目を指定することができるが、それ以外の項目に関しては、ドライバ独自のユーザインターフェースで指定することができるだけで、たとえば、ステープルやN-UP (Nページ分のデータを1枚の紙に出力すること)等の項目の指定が課金料金

の算出に影響を与える場合には、アプリケーションでは、課金を行った場合の料金を取得することができないという問題がある。

【0005】

本発明は、実際に課金されることなく、課金料金に関連する情報をアプリケーションが取得することができ、アプリケーションからの課金料金情報の通知、課金料金をユーザが確認した後の出力、課金料金をユーザが確認した後の出力のキャンセル、設定された料金の上限を超えた際の出力キャンセル等の課金料金に応じた処理を行うことができる課金処理装置、課金方法および記録媒体を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明は、单一または複数の出力装置と、上記出力装置と直接またはネットワークによって接続されている情報処理装置とを有する課金処理装置において、上記情報処理装置から上記出力装置に出力する際に課金する課金手段と、上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出する課金料金算出手段とを有する課金処理装置である。

【0007】

【発明の実施の形態および実施例】

図1は、本発明の一実施例である課金処理装置MC1の構成を示すブロック図である。

【0008】

課金処理装置MC1において、ホストコンピュータ3000は、ROM3に格納されているプログラム用ROMに記憶されている文書処理プログラム等に基づいて図形、イメージ、文字、表（表計算等を含む）等が混在した文書処理を実行するCPU1を備え、システムデバイス4に接続される各デバイスをCPU1が総括的に制御する。

【0009】

また、ROM3に格納されているプログラム用ROMまたは外部メモリ11には、CPU1の制御プログラムであるオペレーティングシステムプログラム（以下「OS」という）等を記憶し、ROM3に格納されているフォント用ROMまたは外部メモリ11には、上記文書処理の際に使用するフォントデータ等を記憶し、ROM3のデータ用ROMまたは外部メモリ11には、上記文書処理等を行う際に使用する各種データ（たとえば、ディレクトリ情報、プリンタドライバテーブル等）が記憶されている。

#### 【0010】

この場合、制御の主体は、ハードウェア上は、CPUである。一方、ソフトウェア上は、制御の主体は、アプリケーションおよび課金処理機能を備えた印刷関連モジュールである。

#### 【0011】

RAM2は、CPU1の主メモリ、ワークエリア等として機能する。キーボードコントローラ（KBC）5は、キーボード9や不図示のポインティングデバイスからのキー入力を制御する。CRTコントローラ（CRTC）6は、CRTディスプレイ（CRT）10の表示を制御する。ディスクコントローラ（DKC）7は、ブートプログラム、各種のアプリケーション、フォントデータ、ユーザファイル、編集ファイル、印刷関連処理プログラム等を記憶するハードディスク12（HD）、フロッピーディスクドライブ13（FDD）にセットされたフロッピーディスク14（FD）等の外部メモリ11とのアクセスを制御する。

#### 【0012】

プリンタコントローラ（PTC）8は、所定の双方向性インターフェース（インターフェース）20を介して、プリンタ5000に接続され、プリンタ5000との通信制御処理を実行する。

#### 【0013】

なお、CPU1は、たとえばRAM2上に設定されている表示情報RAMへのアウトラインフォントの展開（ラスタライズ）処理を実行し、CRT10上でのWYSIWYGを可能としている。また、CPU1は、CRT10上の不図示のマウスカーソル等で指示されたコマンドに基づいて登録された種々のウインドウ

を開き、種々のデータ処理を実行する。

【0014】

プリンタ5000において、プリンタCPU21は、ROM23のプログラム用ROMに記憶された制御プログラム等または外部メモリ30に記憶された制御プログラム等に基づいて、システムバス24に接続される印刷部（プリンタエンジン）27に出力情報としての画像信号を出力する。また、このROM23のプログラムROMには、CPU21の制御プログラム等が記憶されている。

【0015】

ROM23のフォント用ROMには、上記出力情報を生成する際に使用するフォントデータ等が記憶され、ROM23のデータ用ROMには、ハードディスク等の外部メモリ30がないプリンタである場合には、ホストコンピュータ上で利用される情報等を記憶している。

【0016】

CPU21は、入力部25を介して、ホストコンピュータとの通信処理が可能であり、プリンタ内の情報等をホストコンピュータ3000に通知可能に構成されている。

【0017】

CPU21の主メモリ、ワークエリア等として機能するRAM22は、図示しない増設ポートに接続されるオプションRAMによって、メモリ容量を拡張することができる。なお、RAM22は、出力情報展開領域、環境データ格納領域、NVRAM等に用いられる。

【0018】

上記ハードディスク（HD）、ICカード等の外部メモリ30は、ディスクコントローラ（DKC）29によって、アクセスを制御される。外部メモリ30は、オプションとして接続され、フォントデータ、エミュレーションプログラム、フォームデータ等を記憶する。また、操作部28は、操作のためのスイッチとLED表示器等が配されている。

【0019】

また、上記外部メモリは1個に限らず、2個以上備え、内蔵フォントに加えて

、オプションフォントカード、言語系の異なるプリンタ制御言語を解釈するプログラムを格納した外部メモリを、複数接続できるように構成されていてもよい。さらに、図示しないNVRAMを有し、操作部28からのプリンタモード設定情報を記憶するようにしてもよい。

## 【0020】

図2は、ホストコンピュータ3000が、ネットワークを介して、プリンタ5000と、スキャナとプリンタ機能とを備える複合機6000とに接続されている状態を示す図である。

## 【0021】

また、図示しないが、ホストコンピュータ3000が接続されているインターネット上に、プリンタ等が接続されていてもよい。

## 【0022】

図3は、ホストコンピュータ3000において、OSの管理の下に、RAM2にロードされたアプリケーションと、課金処理機能を備えたプリンタドライバとを含む印刷関連モジュールが実行可能となった状態におけるメモリマップを示す図である。

## 【0023】

図4は、上記実施例において、課金処理機能を備えた印刷関連モジュールの構成を説明するブロック図である。

## 【0024】

上記印刷関連モジュールは、出力データ生成部53と、課金料金算出の基礎となる課金情報54と、アプリケーションから課金に関連した情報を受けたり、アプリケーションに課金料金の情報を返す課金関連データ送受信部52と、課金情報とアプリケーションから受け取った課金関連データとに基づいて、課金料金を算出する課金計算部51とによって構成されている。

## 【0025】

次に、上記実施例の動作について説明する。

## 【0026】

図5は、上記実施例の動作を示すフローチャートである。

## 【0027】

図5に示されているプログラムは、ホストコンピュータ3000上のHD12またはFD14に記憶され、CPU1が、OS46の管理の下で実行することによって達成する手段として機能している。

## 【0028】

上記実施例では、BIOS、OS、アプリケーションおよび課金処理機能を備えた印刷関連モジュールを、CPU1が実行することによって、ホストコンピュータ3000が動作する。BIOSは、プログラムROM3に書き込まれ、OSは、外部メモリ11であるハードディスク(HD)12に書き込まれている。そして、ホストコンピュータ3000の電源がONされたときに、BIOSプログラム中のIPL(Initial Program Loading)機能によって、OSがHDからRAM2へ読み込まれ、OSの動作が開始される。

## 【0029】

そして、ユーザ等の指示によって、ホストコンピュータ3000上で、OS管理の下に動作するアプリケーションから、印刷処理が実行された場合や、アプリケーションが呼び出した場合であり、印刷関連モジュールを記録しているFD14をFDD13にセットするか、または、印刷関連モジュールをHDドライブ12に保存しておき、OSおよびBIOSの制御の下に印刷関連モジュールが、FD14またはHDドライブ12から読み出され、RAM2にロードされたときに、課金処理機能を備えた印刷関連モジュールが、実際に動作可能になる。

## 【0030】

上記実施例におけるアプリケーションと課金処理機能とを備えた印刷関連モジュールが、ホストコンピュータ3000上のRAM2にロードされ、実行可能となった状態のメモリマップが、図3に示されている。ここでは、課金料金の算出に影響を与える設定として、2in1が設定され(2ページ分のデータを縮小して紙1ページに印字するように設定され)、課金料金は、印字された紙の枚数のみに依存するものとして例を示すが、カラーまたはモノクロ、またはステープルの有無等、他の課金要素を含むようにしてもよい。また、ここで、アプリケーションは、以下の4種類の機能がある。

【0031】

- ・課金料金の情報をユーザに通知し、出力しない
- ・課金料金の情報をユーザに通知せず、出力する
- ・課金料金の情報をユーザに通知し、ユーザが料金を確認後に出力する
- ・課金料金の情報をユーザに通知し、ユーザが料金を確認後に出力をキャンセルする。

【0032】

アプリケーションにおける処理フローが、図5に示され、ユーザに課金料金情報の通知を行う設定であるか否かを判別し（ステップ301）、通知を行わない場合、ステップ304に進む。通知を行う場合には、ステップ302に進み、拡張可能なインターフェースまたは独自のインターフェースを、ドライバに使用して、課金関連データを渡し、課金料金の算出を行ってもらい、算出された課金料金を受け取る。

【0033】

この際、呼び出されたドライバにおいて、課金関連データ送受信部52で受け取ったデータと、課金料金算出の基礎となる課金情報54と、ドライバ設定とに基づいて、課金計算部51が課金料金を算出する。

【0034】

ここでは、先に示した例で説明すると、アプリケーションは、論理的な総ページ数をドライバに渡し、それを課金関連データ送受信部52で受け取ったドライバは、ドライバ設定と合わせて、出力される紙の枚数とその単価との情報が含まれている課金情報54に基づいて、課金計算部51が課金料金の算出を行い、その算出結果を、課金関連データ送受信部52を通じて、アプリケーションに通知する。

【0035】

次に、ステップ303で、アプリケーションは、ドライバで算出された課金料金をユーザに通知する。ステップ304で出力を行う必要がある場合、ステップ305に進み、課金の伴う印刷処理を行い（ステップ305）、終了する。出力を行う必要がない場合には、終了する。

【0036】

また、利用可能な金額に上限があり、設定された料金の上限を超えた際に出力をキャンセルするようにしてもよい。

【0037】

上記実施例によって、実際に課金されることなく、課金料金に関する情報をアプリケーションが取得することができ、アプリケーションからの課金料金情報の通知や、課金料金をユーザが確認した後の出力や、課金料金をユーザが確認した後の出力のキャンセルや、設定された料金の上限を超えた際の出力キャンセルというように、課金料金に応じた処理を行うことができる。

【0038】

なお、上記実施例では、アプリケーションプログラムと課金処理機能とを備える印刷関連モジュールを記録する媒体が、FDまたはHDドライブであるとしたが、媒体は、それ以外に、CD-ROMやICメモリカード、または電子メールやパソコン通信等のネットワークを介するものであってもよい。さらに、アプリケーションプログラムと課金処理機能とを備える印刷関連モジュールを、ROMに記録し、これをメモリマップの一部となすように構成し、CPU1が直接実行するようにしてもよい。

【0039】

すなわち、上記実施例を、記録媒体の発明として把握することができる。

【0040】

なお、上記実施例の機能が実行されるのであれば、単体の機器であっても、複数の機器からなるシステムであっても、LAN、WAN等のネットワークを介して接続がなされ、処理が行われるシステムであっても、上記実施例を適用することができる。

【0041】

【発明の効果】

本発明によれば、実際に課金されることなく、課金料金に関する情報をアプリケーションが取得することを可能にし、アプリケーションからの課金料金情報

の通知、課金料金をユーザが確認した後の出力や、課金料金をユーザが確認した後の出力のキャンセル、設定された料金の上限を超えた際の出力キャンセルというように、課金料金に応じた処理を行うことができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施例である課金処理装置MC1の構成を示すブロック図である。

【図2】

ホストコンピュータ3000が、ネットワークを介して、プリンタ5000と、スキャナとプリンタ機能とを備える複合機6000とに接続されている状態を示す図である。

【図3】

ホストコンピュータ3000において、OSの管理の下に、RAM2にロードされたアプリケーションと、課金処理機能を備えたプリンタドライバとを含む印刷関連モジュールが実行可能である状態におけるメモリマップを示す図である。

【図4】

上記実施例において、課金処理機能を備えた印刷関連モジュールの構成を説明するブロック図である。

【図5】

上記実施例の動作を示すフローチャートである。

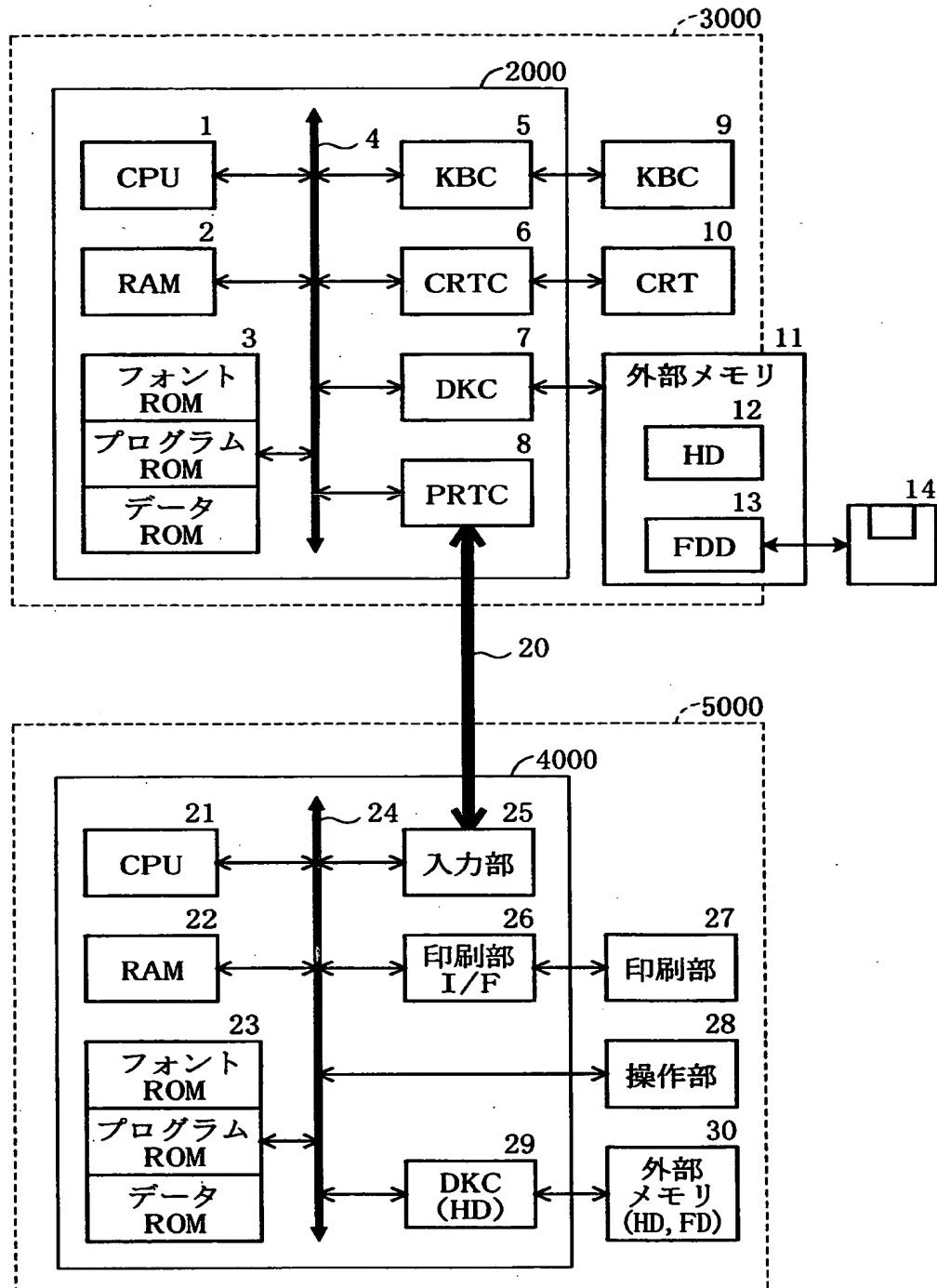
【符号の説明】

MC1…課金処理装置MC1、  
3000…ホストコンピュータ、  
5000…プリンタ、  
6000…複合機。

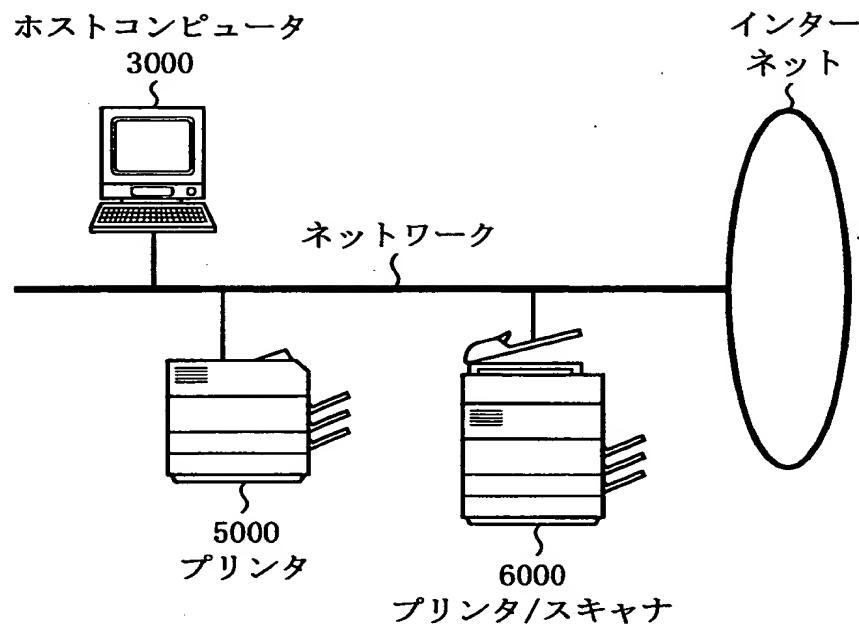
【書類名】 図面

【図1】

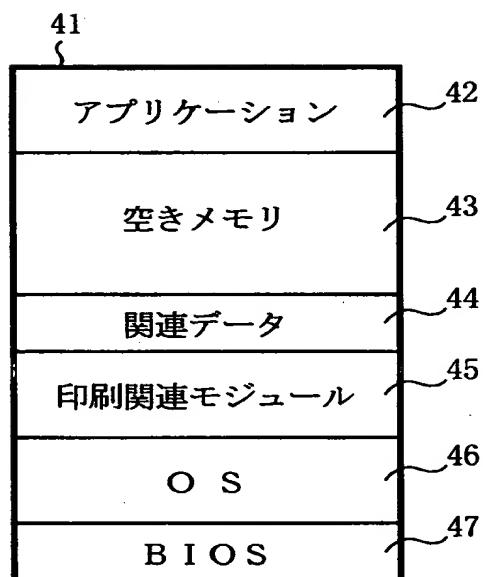
## MC1:課金処理装置



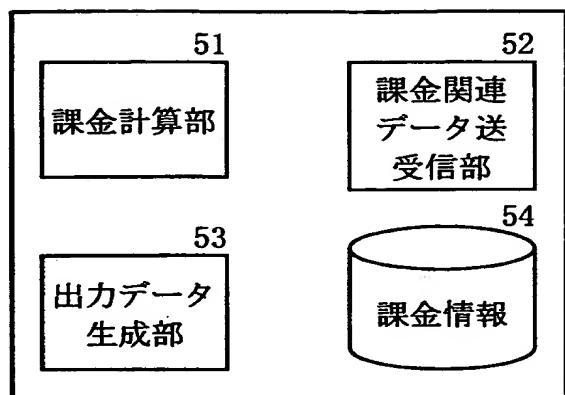
【図2】



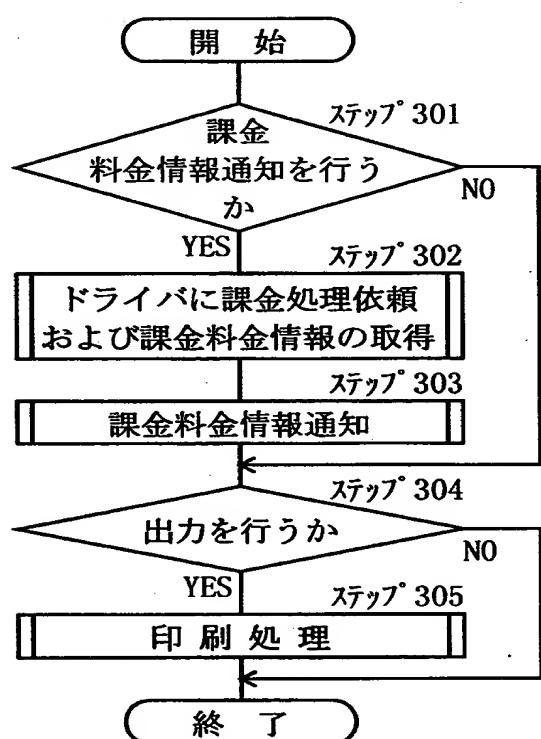
【図3】



【図4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 実際に課金されることなく、課金料金に関連する情報をアプリケーションが取得することができ、アプリケーションからの課金料金情報の通知、課金料金をユーザが確認した後の出力、課金料金をユーザが確認した後の出力のキャンセル、設定された料金の上限を超えた際の出力キャンセル等の課金料金に応じた処理を行うことができる課金処理装置、課金方法および記録媒体を提供することを目的とするものである。

【解決手段】 単一または複数の出力装置と、上記出力装置と直接またはネットワークによって接続されている情報処理装置とを有する課金処理装置において、上記情報処理装置から上記出力装置に出力する際に課金する課金手段と、上記出力装置が出力せずに、課金料金を算出する課金料金算出手段とを有する課金処理装置である。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社